





いました。また、彼は学年内でも優秀クラスに属していましたが、平均点も合格ライン内に入っていましたので、私達も彼の合格を願っていました。しかし、今年6月から公立高校・大学の学費が無料になったため、フィリピン全国から多くの学生達がフィリピン工科大学付属高校に転入手続きを行いました。転入には試験があり、コウタ君は残念ながら不合格となってしまいました。彼は、転入を諦めず、フィリピン技術大学付属高校への転入に再チャレンジしました。しかし、その学校も不合格でした。

母親のアナリサさんによると、コウタ君もまた学校でいじめに遭っていたようで、そのため転入を強く希望していたそうです。そして、コウタ君は通っていた公立高校には戻らず、私立高校に転入を希望しました。残念ながら、私立高校の学費は無料になりません。日

本人父親は行方不明のため養育費支援は無く、アナリサさんは1日の生活費を稼ぐのにも苦労している状況です。また、JFCネットワーク奨学金制度の条件の一つとして、公立高校に通うJFCに対して奨学金が支払われます。これらの事情をコウタ君とアナリサさんに説明しましたが、コウタ君の私立高校への転入意思は変わりませんでした。

また、コウタ君は思春期の真っただ中にあり、彼のアナリサさんへの反抗が彼女をととても苦しめていました。そんな状況の中で、アナリサさんは寝たきりの彼女の母親の介護を一人で行っていました。自分には兄弟姉妹が8人いるのに、誰も助けてくれない。コウタが言うことを聞いてくれないと、いつも泣きながらマリガヤハウスの母親仲間に話していました。そして、今年5月アナリサさんから、マニラ首都圏にある自宅を売り払い、親戚の住むカビテ州に自分の母親と引っ越した、コウタ君は親戚のおじさんが学校の費用を全て支援してくれるというので私立高校に転入させた、との事でした。私達は、コウタ君が学校を継続できる事を願って、アナリサさんからの報告を受け入れました。

長い間ご支援いただきましたのに、このようなご報告で申し訳ございません。家庭や学校への介入の限界と思春期を迎えた子ども達とそれに悩む母親達への何らかの支援の必要性を感じました。

現在JFCネットワーク奨学生は、チュナイ ヒカル君(13歳)・ハルミ トミタさん(13歳)・ナナコレモラさん(19歳)の3人になります。彼らも懸命に勉学に励み、将来の目標のために頑張っています。今後ともご支援よろしく願いいたします!

